



## 2012年2月期（2011年度） 決算補足資料

## 1 . 2012年2月期(2011年度) 連結決算概要

---

## 2012年2月期(2011年度)連結業績ハイライト

2011年度の業績は、上期に公表した業績予想通りの着地

震災影響によって、売上高は前期に比べ減少したが、経費削減等により増益

	2011年2月期 (2010年度)	2012年2月期 (2011年度)予想	2012年2月期 (2011年度)実績
売上高	90,105	88,000	87,464
営業利益	1,120	1,200	1,215
当期純利益	403	650	604

(単位:百万円)

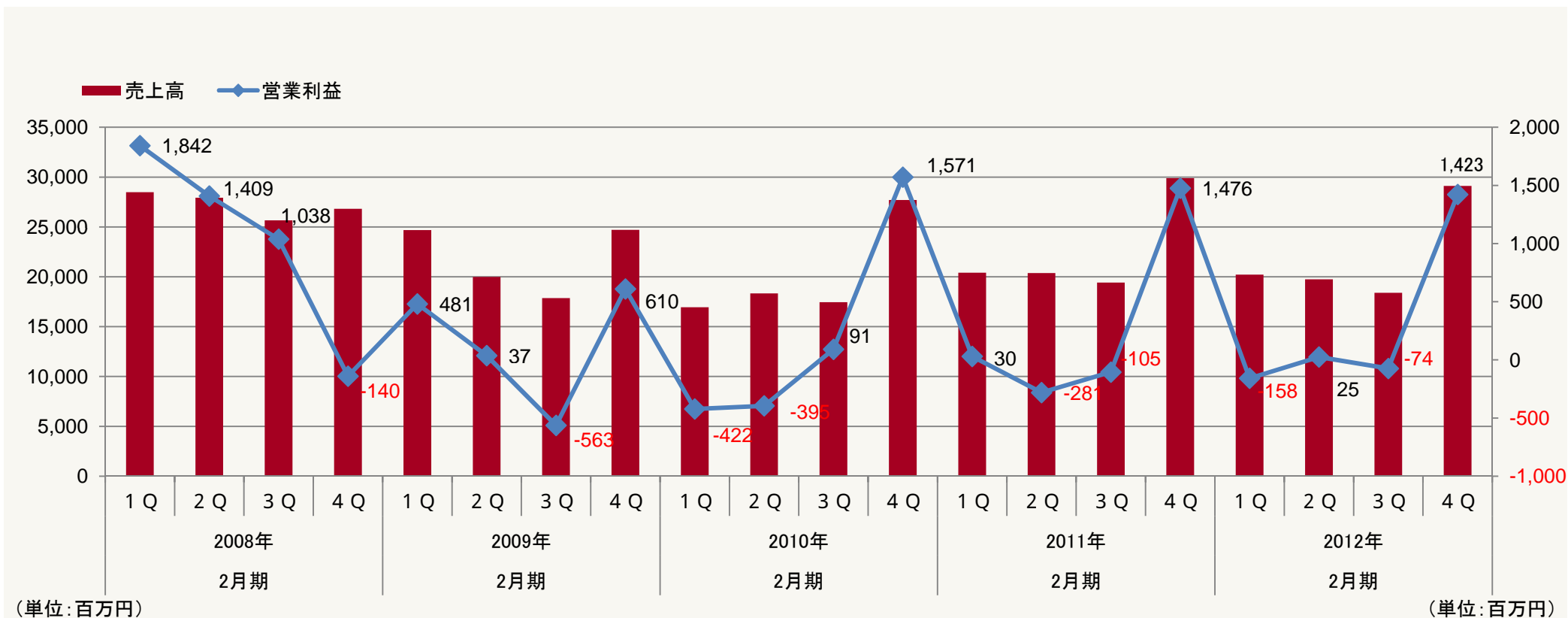
## 1-1 業績の概要



# 売上高・営業利益の四半期推移

➡ 近年は第4四半期に売上が集中する下期型の業績推移が続いている

第4四半期の売上高は300億円近くにのぼり、固定費を吸収して利益率が向上する

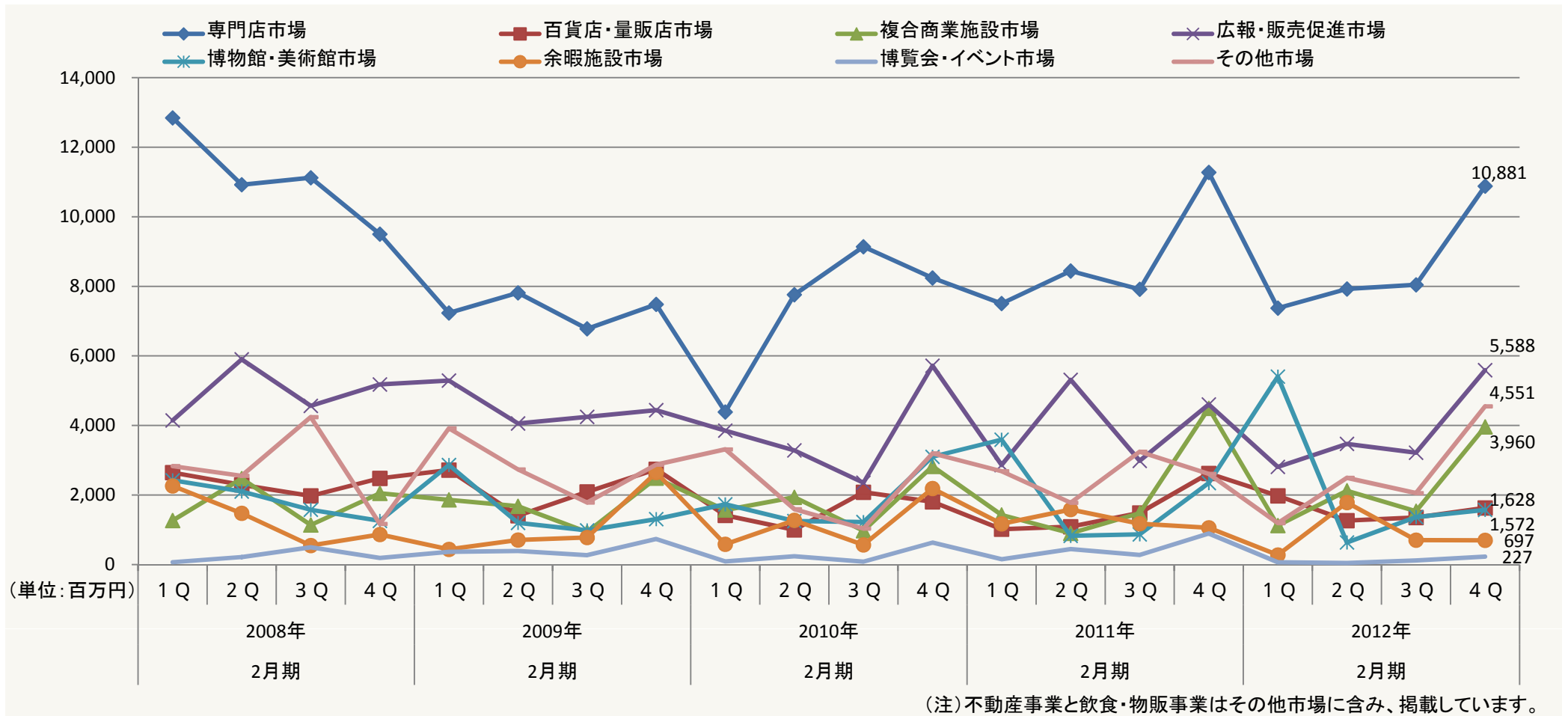


## 1-2 売上と総利益



# 市場分野別の四半期推移

- 商業施設、ショールーム、展示会イベントのオープニングは、春・秋に集中する傾向がある  
一方、オフィスや金融店舗、博物館の運営管理業務など季節に左右されない仕事が増加している
- 2012年度の上期は、いくつかの大型商業施設のオープニングが控えている



## 1-2 売上と総利益

# 市場分野別の状況



大型複合商業施設の売上が一部計上、博物館・美術館市場では大型プロジェクトが竣工をむかえたため減収。当期もアパレルブランド、金融店舗などを手掛けた。余暇施設、博覧会・イベント市場の減少は、前期に大型プロジェクトが計上されていたことが要因

	2011年2月期		2012年2月期		売上構成率		ポイント
	売上高	前期比	売上高	前期比	前期	当期	
専門店市場	35,142	19.0%	34,224	△2.6%	39.0%	39.1%	前期はファストファッション店舗で10億円を超える案件があったため減収。当期もアパレルブランド、金融店舗などを手掛けた。
百貨店・量販店市場	6,209	△1.4%	6,221	0.2%	6.9%	7.1%	大阪、名古屋の主要駅周辺の大手百貨店の改装に加え、東急電鉄グループの商業施設を数多く手掛けた
複合商業施設市場	8,294	13.6%	8,740	5.4%	9.2%	10.0%	空港や主要駅の商業施設のほか、大型再開発、高速道路のサービスエリアの商業ゾーン的环境演出などを手掛けた
広報・販売促進市場	15,761	3.6%	15,085	△4.3%	17.5%	17.2%	上期に震災の影響が大きくあったが、下期にかけて緩やかに回復。住宅関連、医薬品メーカーなどのSR、展示会が堅調。
博物館・美術館市場	7,631	4.5%	8,981	17.7%	8.5%	10.3%	大型案件の名古屋市科学館のほか、話題の藤子・F・不二雄ミュージアムを手掛けた。運営事業は震災の影響があった。
余暇施設市場	4,987	8.2%	3,459	△30.6%	5.5%	4.0%	大型テーマパーク、子供向けキャラクター施設、水族館などを手掛けた。前期の総利益率は、大型案件の赤字処理の影響。
博覧会・イベント市場	1,762	68.7%	459	△74.0%	2.0%	0.5%	医学会博覧会、全国植樹祭などを手掛けたが、大型案件がなく、減収。前期は上海万博の売上計上があった。
その他市場	8,269	18.0%	8,373	1.3%	9.2%	9.6%	通信、化粧品、人材派遣等の企業のオフィス環境、プライダル施設、クリニック的环境演出、内装を手掛けた。
ディスプレイ事業 小計	88,059	12.4%	85,545	△2.9%	97.8%	97.8%	
不動産事業	491	△9.0%	465	△5.4%	0.5%	0.5%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入。
飲食・物販事業	1,553	△2.2%	1,453	△6.4%	1.7%	1.7%	ミュージアムショップ、物販・飲食店舗の運営。ミュージアムショップは、震災の影響により来客数が減少。
合計	90,105	12.0%	87,464	△2.9%	100.0%	100.0%	

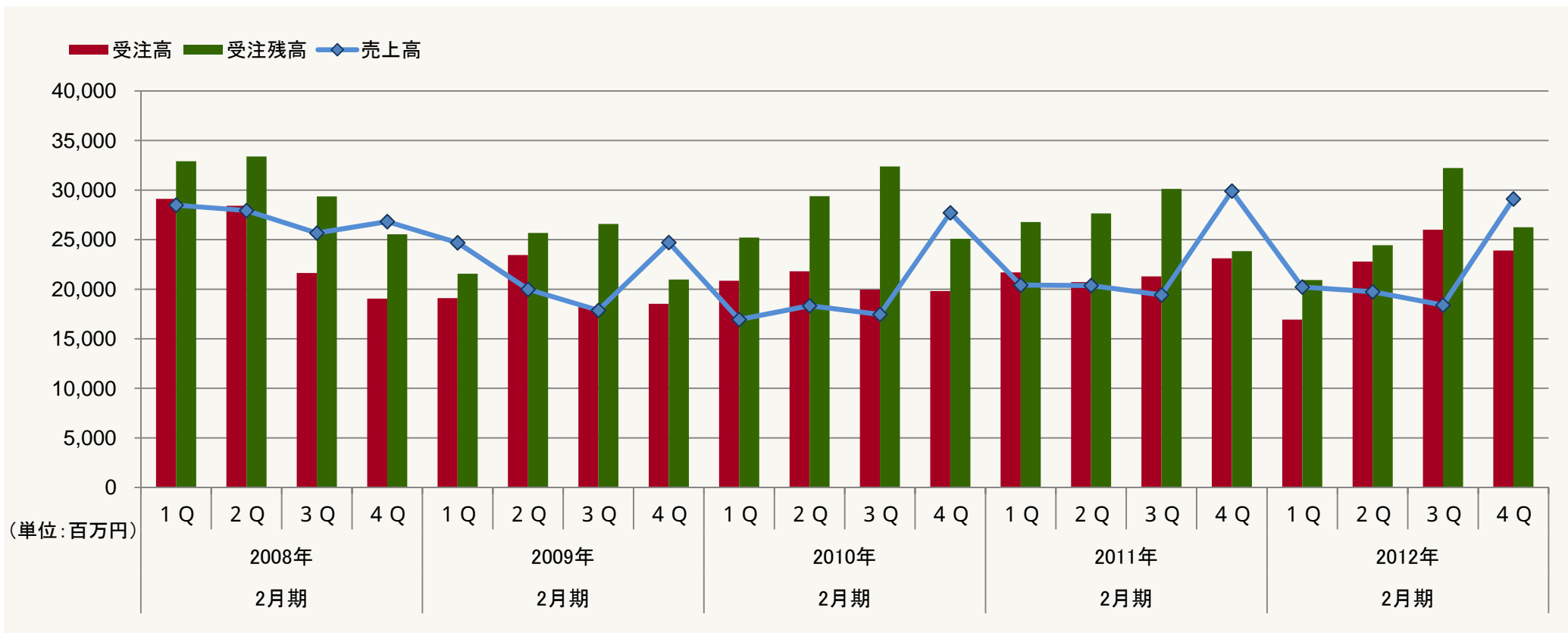
(単位:百万円)

## 1-2 売上と総利益



# 受注高・受注残高の四半期推移

- 受注残高は第3四半期までに大きく積み上がる傾向が続いている
- 期末の受注残高は、近年では高い水準にある



## 1-2 売上と総利益



# 市場分野別受注高・受注残高

- 受注高は、大型商業施設に出店するテナント工事の需要により専門店市場が増加、余暇施設、その他市場でも大型案件が受注になった
- 受注残高は、2012年春にオープンをむかえる施設のテナント工事のほか、大型温浴施設やオフィス環境演出が受注になり増加  
博物館・美術館市場の受注残の減少は、大型プロジェクトの売上計上が要因

	2011年2月期		2012年2月期		受注高 前期比 増減		受注残高 前期比 増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	33,893	4,746	37,155	7,678	3,261	9.6%	2,931	61.8%
百貨店・量販店市場	6,119	827	6,133	739	14	0.2%	△88	△10.6%
複合商業施設市場	11,748	5,253	6,923	3,436	△4,825	△41.1%	△1,816	△34.6%
広報・販売促進市場	15,363	3,335	15,289	3,539	△73	△0.5%	204	6.1%
博物館・美術館市場	6,352	6,400	6,235	3,654	△116	△1.8%	△2,745	△42.9%
余暇施設市場	3,760	1,039	4,410	1,990	650	17.3%	951	91.5%
博覧会・イベント市場	1,219	146	686	374	△533	△43.7%	227	155.2%
その他市場	8,351	2,087	11,116	4,830	2,765	33.1%	2,742	131.4%
合計	86,808	23,838	87,951	26,244	1,142	1.3%	2,406	10.1%

(単位:百万円)

(注)不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

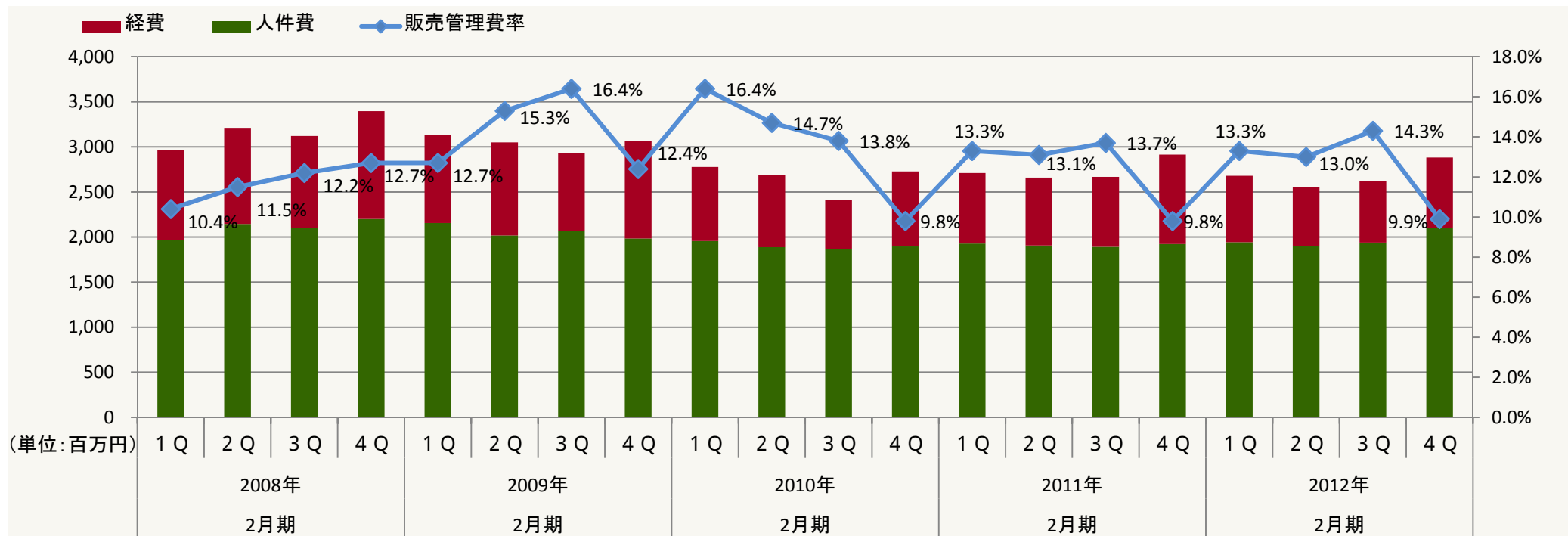


# 1-3 販売管理費



## 販売管理費の四半期推移

- ➡ 販管費は、削減策を実施しながら計画通りに推移している
- ➡ 第4四半期の販管費比率は売上の増加により9%台まで低下、年間でも前期同等の12.3%に抑制



経費	996	1,066	1,021	1,197	974	1,032	861	1,082	822	801	545	832	783	753	776	993	736	654	684	776
人件費	1,968	2,145	2,100	2,200	2,156	2,017	2,066	1,984	1,956	1,888	1,869	1,896	1,927	1,906	1,891	1,922	1,943	1,903	1,937	2,105
販管費	2,964	3,211	3,122	3,397	3,131	3,049	2,927	3,067	2,778	2,689	2,415	2,728	2,710	2,659	2,668	2,915	2,680	2,557	2,621	2,881

(単位:百万円)

## 1-4 財務諸表

## 連結損益計算書



	2011年2月期		2012年2月期		前期比 増減率		ポイント
売上高	90,105	87,464	△2,641	△2.9%	大型複合商業施設の新装、改装業務や博物館・美術館市場で大型プロジェクトの完工があったが、震災の影響などにより減収。業績予想通りに着地した。		
売上総利益(率)	12,072(13.4%)	11,957(13.7%)	△115	△1.0%(0.3%)	震災の影響により価格競争などが続いた厳しい年度であったが、コスト管理の徹底をはかり、総利益率は0.3%の良化		
販売管理費(率)	10,952(12.2%)	10,741(12.3%)	△210	△1.9%(0.1%)	販売管理費は、経費削減等の効果により前期比2.1億円の減少。しかし、繁忙期の人件費の増加などにより販売管理費比率は0.1%上昇。		
営業利益(率)	1,120(1.2%)	1,215(1.4%)	95	8.5%(0.2%)	大型案件のコスト管理の徹底、固定費の削減により営業利益は8.5%の増益。		
経常利益(率)	1,288(1.4%)	1,325(1.5%)	36	2.9%(0.1%)	受取配当金などの営業外収益があったが、営業外費用が若干増加し、経常利益は2.9%の増益。		
特別利益	110	308	197	178.4%	特別利益の増加は、受取保険料、ストックオプション失効の戻り入れなどによるもの。		
特別損失	119	614	494	412.42%	特別損失の増加は、震災関連費用(0.7億)、前会長退職慰労金・社葬費用等(1.9億円)、過年度給与手当(2.3億円)などによるもの。		
当期純利益(率)	403(0.4%)	604(0.7%)	200	49.7%(0.3%)	長期繰延税金負債の取崩し等により実効税率が低下、当期純利益は49.7%増益となった。		

(単位: 百万円)

1-4 財務諸表

連結貸借対照表



		2011年2月期	2012年2月期	前期末比 増減		ポイント
資 産	流動資産	29,465	31,398	1,933	6.6%	期末に売上が集中したことによる受取手形・売掛金の増加(12.4億円)、受注残高の増加によるたな卸し資産の増加(13.5億円)。現預金は減少(△6.4億円)。
	固定資産	23,396	22,946	△450	△1.9%	大型の設備投資はなく、減価償却の実施(△2.9億円)、投資有価証券の時価差額の減少(△2.1億円)等によるもの。
	資産合計	52,861	54,344	1,483	2.8%	
負 債 ・ 純 資 産	流動負債	21,798	23,601	1,803	8.3%	期末の仕入の増加による買掛金の増加(3.9億円)、短期借入の実施(11.8億円)による増加。
	固定負債	6,384	5,860	△523	△8.2%	前会長等の役員退職にともなう役員退職慰労金引当金(△1.6億円)、実効税率の低下にともなう繰延税金負債の取崩し等(1.8億円)、により減少。
	負債合計	28,182	29,461	1,279	4.5%	
	純資産	24,679	24,883	203	0.8%	当期純利益の計上にともなう利益剰余金の増加。
	負債純資産合計	52,861	54,344	1,483	2.8%	

(単位:百万円)

## 連結キャッシュ・フロー計算書

	2011年2月期	2012年2月期	ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,181	△735	税金等調整前当期純利益の計上と仕入債務の増加などがあったが、期末に売上が集中したことによる売上債権の増加、受注残高の増加にともなう、たな卸資産の増加などにより支出となった。
投資活動によるキャッシュ・フロー	△221	△716	OA機器などの取得、リースによる有形固定資産の取得や信託受益権の取得、保証金の返還などにより支出が4億94百万円増加。
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,654	870	配当金の支払いがあったが、運転資金の借入により8億70百万円の収入。前回は短期借入の返済があり、大幅な支出であった。
現金及び現金同等物の増加額	309	△584	
現金及び現金同等物の期末残高	995	411	

(単位:百万円)



## 1-4 財務諸表



## キャッシュ・フロー計算書の四半期(累計)推移

	第1四半期 累計	第2四半期 累計	第3四半期 累計	第4四半期 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,207	1,795	1,341	△735
投資活動によるキャッシュ・フロー	△284	△248	△660	△716
財務活動によるキャッシュ・フロー	△161	△216	△243	870
現金及び現金同等物の増加額	765	1,328	428	△584
現金及び現金同等物の期末残高	1,761	2,324	1,423	411

(単位:百万円)

## 2013年2月期(2012年度) 連結業績予想

- ➡ 国際財務報告基準 (IFRS) への対応のため決算期を変更
- ➡ 今期目標 = 中期経営計画の目標数値 + 決算期変更影響額

	2012年2月期(実績)	2013年2月期(予想)	中期経営計画の 目標数値
売上高	87,464	93,000	95,000
営業利益	1,215	1,600	2,500
経常利益	1,325	1,700	
当期純利益	604	940	
一株当り配当金	8円	8円	
配当性向	111.6%	73.9%	

決算期の変更が要因

決算日：2月15日から2月末日へ  
 今期は12.5ヵ月決算を実施

15日分の人件費・経費  
 +  
 1ヵ月分の減価償却費・賃料など

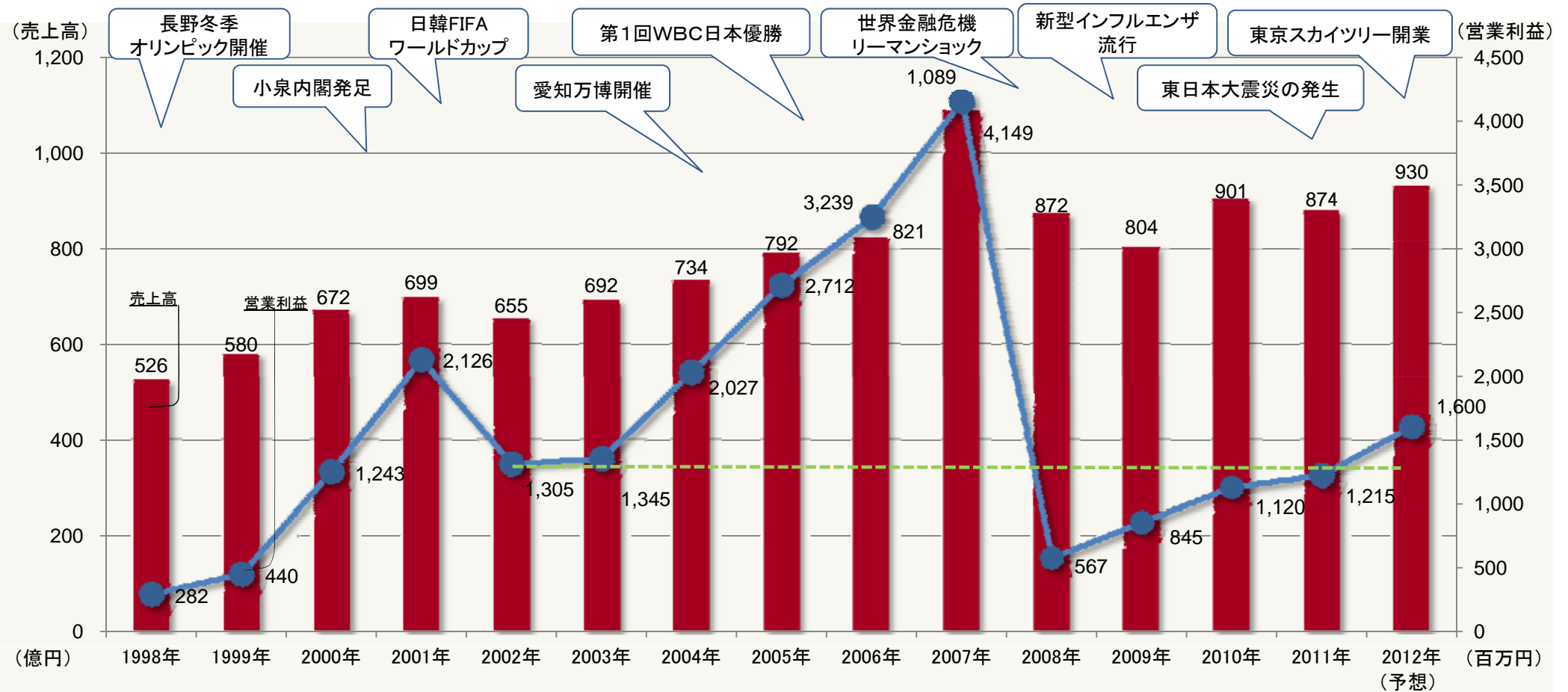
(単位：百万円)

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

## 2 . 今後の見通しについて

# 通期業績の推移

- 業績はリーマンショック以降の下降局面から回復基調、3期連続の増益
- 2012年度の業績(営業利益)は2003年度の水準、今後は利益率の向上を目指す



(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。



# ディスプレイ市場の状況

- ➡ 市場全体の規模は1兆3,000億円前後と推定され、上位企業への寡占化が進んでいる
- ➡ 上位30社における当社のシェアは順調に伸びている

【上位30社の市場シェア 2001年度～2010年度】

企業名	2001年度		企業名	2002年度		企業名	2003年度		企業名	2004年度		企業名	2005年度	
	売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率
1 乃村工務社	69,936	12.60%	1 乃村工務社	65,493	11.5%	1 乃村工務社	69,234	12.5%	1 乃村工務社	73,442	12.0%	1 乃村工務社	79,178	13.1%
2 丹青社	49,904	9.00%	2 丹青社	58,468	10.2%	2 丹青社	58,137	10.5%	2 丹青社	69,727	11.4%	2 丹青社	62,547	10.3%
3 高島屋スペースクリエイツ	34,821	6.30%	3 高島屋スペースクリエイツ	36,987	6.5%	3 高島屋スペースクリエイツ	37,559	6.8%	3 エイムクリエイツ	38,945	6.3%	3 エイムクリエイツ	37,415	6.2%
4 エイムクリエイツ	33,888	6.10%	4 エイムクリエイツ	32,924	5.8%	4 スペース	27,450	5.0%	4 高島屋スペースクリエイツ	33,693	5.5%	4 スペース	31,903	5.3%
5 パルコススペース	31,759	5.70%	5 大丸装工	31,128	5.4%	5 船場	25,737	4.7%	5 スペース	31,469	5.1%	5 大丸装工	28,572	4.7%
6 大丸装工	26,682	4.80%	6 パルコススペース	26,228	4.6%	6 エイムクリエイツ	23,662	4.3%	6 大丸装工	28,283	4.6%	6 船場	27,608	4.6%
7 船場	24,024	4.30%	7 船場	25,121	4.4%	7 パルコススペース	23,167	4.2%	7 船場	28,173	4.6%	7 ジーク	26,376	4.4%
8 ジーク	21,021	3.80%	8 スペース	24,136	4.2%	8 ジーク	22,626	4.1%	8 ジーク	25,804	4.2%	8 高島屋スペースクリエイツ	25,396	4.2%
9 吉忠マネキン	20,651	3.70%	9 ジーク	21,542	3.8%	9 大丸装工	20,485	3.7%	9 パルコススペース	25,729	4.2%	9 パルコススペース	21,985	3.6%
10 スペース	19,666	3.50%	10 吉忠マネキン	19,190	3.4%	10 日商インターライフ	20,171	3.6%	10 吉忠マネキン	22,366	3.6%	10 吉忠マネキン	21,782	3.6%
上位30社の売上合計	555,789	100.0%	上位30社の売上合計	571,166	100.0%	上位30社の売上合計	552,677	100.0%	上位30社の売上合計	613,965	100.0%	上位30社の売上合計	606,030	100.0%

企業名	2006年度		企業名	2007年度		企業名	2008年度		企業名	2009年度		企業名	2010年度	
	売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率		売上高	占有率
1 乃村工務社	82,072	12.5%	1 乃村工務社	108,902	16.3%	1 乃村工務社	87,248	13.4%	1 乃村工務社	80,436	14.9%	1 乃村工務社	90,105	15.5%
2 丹青社	72,449	11.0%	2 丹青社	45,553	6.8%	2 丹青社	61,154	9.4%	2 丹青社	49,763	9.2%	2 丹青社	53,441	9.2%
3 エイムクリエイツ	46,067	7.0%	3 エイムクリエイツ	41,672	6.2%	3 スペース	40,166	6.2%	3 スペース	25,853	4.8%	3 Jフロント建装	34,995	6.0%
4 スペース	37,169	5.7%	4 スペース	39,481	5.9%	4 エイムクリエイツ	34,239	5.2%	4 エイムクリエイツ	25,767	4.8%	4 スペース	29,228	5.0%
5 高島屋スペースクリエイツ	33,012	5.0%	5 大丸装工	38,539	5.8%	5 ジーク	31,672	4.9%	5 Jフロント建装	25,175	4.7%	5 エイムクリエイツ	23,800	4.1%
6 船場	32,512	5.0%	6 高島屋スペースクリエイツ	32,686	4.9%	6 船場	30,177	4.6%	6 ジーク	25,045	4.6%	6 ジーク	23,786	4.1%
7 大丸装工	30,902	4.7%	7 ジーク	31,343	4.7%	7 Jフロント建装	27,779	4.3%	7 三井デザインテック	22,084	4.1%	7 三井デザインテック	21,304	3.7%
8 ジーク	29,661	4.5%	8 船場	30,373	4.5%	8 三井デザインテック	25,183	3.9%	8 高島屋スペースクリエイツ	20,908	3.9%	8 高島屋スペースクリエイツ	21,292	3.7%
9 パルコススペース	22,754	3.5%	9 パルコススペース	26,365	3.9%	9 高島屋スペースクリエイツ	24,890	3.8%	9 シミズオクト	17,870	3.3%	9 パルコススペース	18,830	3.2%
10 吉忠マネキン	20,273	3.1%	10 シミズオクト	19,343	2.9%	10 パルコススペース	22,437	3.4%	10 パルコススペース	17,758	3.3%	10 船場	18,600	3.2%
上位30社の売上合計	656,371	100.0%	上位30社の売上合計	669,701	100.0%	上位30社の売上合計	652,597	100.0%	上位30社の売上合計	538,786	100.0%	上位30社の売上合計	582,910	100.0%

(百万円)

※上記は当社集計による数値です。

ノムラグループは、「アカウントサービスの徹底」「空間創造 & 活性化事業の強化」「国際企業化の加速」を実現し、『選ばれるノムラ』を目指します。

## NOMURA Challenge 201-1.2.3

1

アカウントサービスの徹底  
「ひとつになる」

2011年～

お客様ニーズを捉えた提案ができるノムラへ

2

空間創造 & 活性化事業の強化  
「創りそして活かす」

2011年～2012年

お客様とともに最適な価値を提供できるノムラへ

3

国際企業化の加速  
「世界を目指す」

2011年～2013年

世界中のお客様から常に選ばれるノムラへ

## Challenge 1 アカウントサービスの徹底

▼「選択と集中」によるリスク管理の徹底をおこない、利益喪失案件が減少

2010年度

2011年度

年間 **249件減少!**

年間JOB件数: **9,738**件  
利益喪失案件数: **692**件



年間JOB件数: **10,320**件  
利益喪失案件数: **443**件

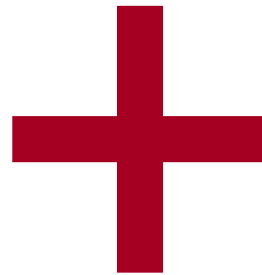
## Challenge 2 空間創造 & 活性化事業の強化

➡ 博物館の運営管理を拡大、“まちづくりの”視点で地元密着

まちの活性化・集客のための仕掛けやイベントを提案し、情報発信をおこなっていく

### 【2010年度までの実績】

- 長崎歴史文化館
- 佐賀県立宇宙科学館
- 葛飾柴又寅さん記念館
- 青森県立三沢航空科学館
- 埼玉県立川の博物館
- 高浜市やきものの里かわら美術館
- 壱岐市立一支国博物館
- 東京都水道歴史館
- 東京都水の科学館
- 総務省平和祈念展示資料館



### 【2011年度 新規追加実績】

- もりおか歴史文化館

### 【2012年度 新規追加実績】

- 広島県立美術館
- 岐阜市長良川鶺鴒伝承館
- 多摩六都科学館



### 【2011年度 実績】

全11館、総額23億円

### 【2012年度 予想】

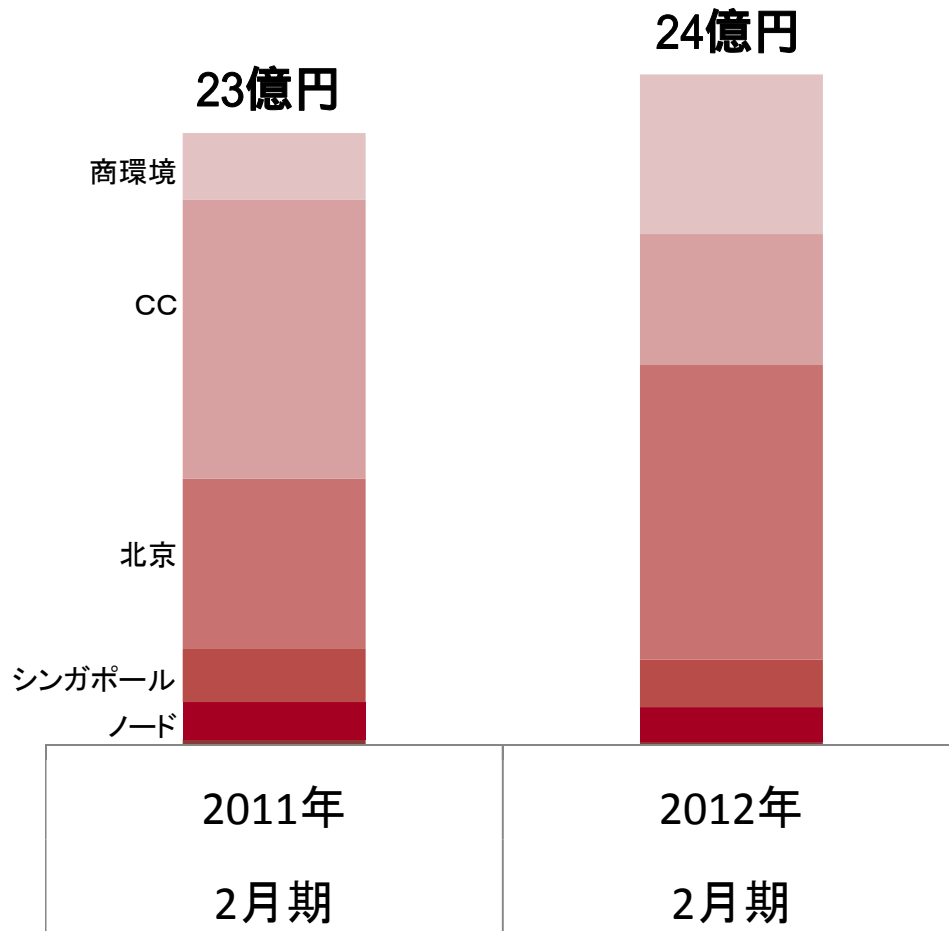
全14館、総額28億円(前期比+5億)

**収益化達成、運営管理先を拡大**

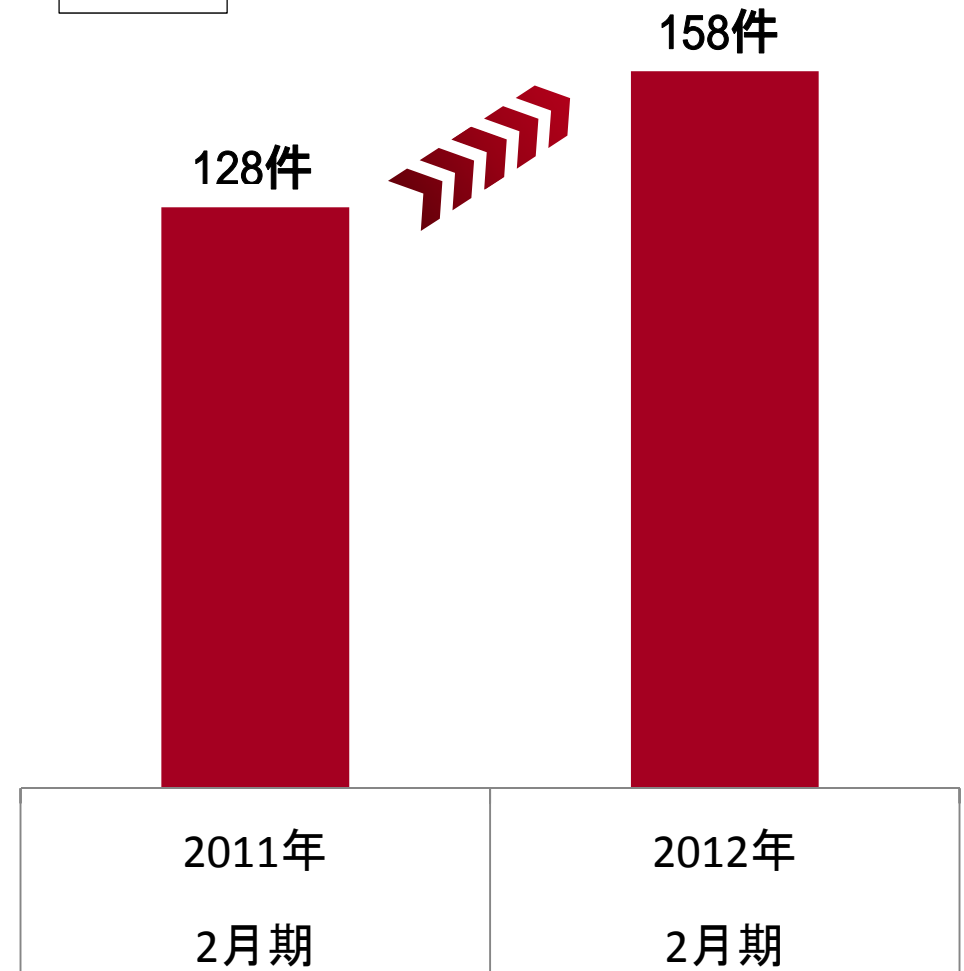
# Challenge 3 国際企業化の加速

強みであるクリエイティブカ・デザインカでアジアにおける“ノムラブランド”を確立する

海外売上高



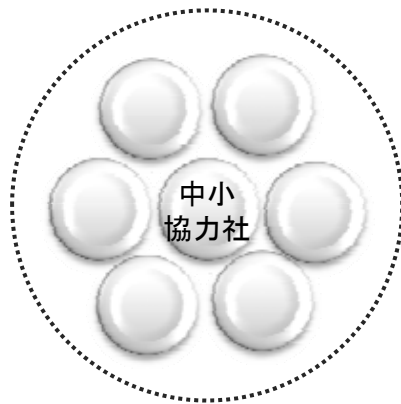
案件数



# 中期重点方針: 継続的な収益基盤の安定 ~生産性の向上~



➡ 協力会社の育成をおこない、ノムラ独自の サプライチェーンを構築



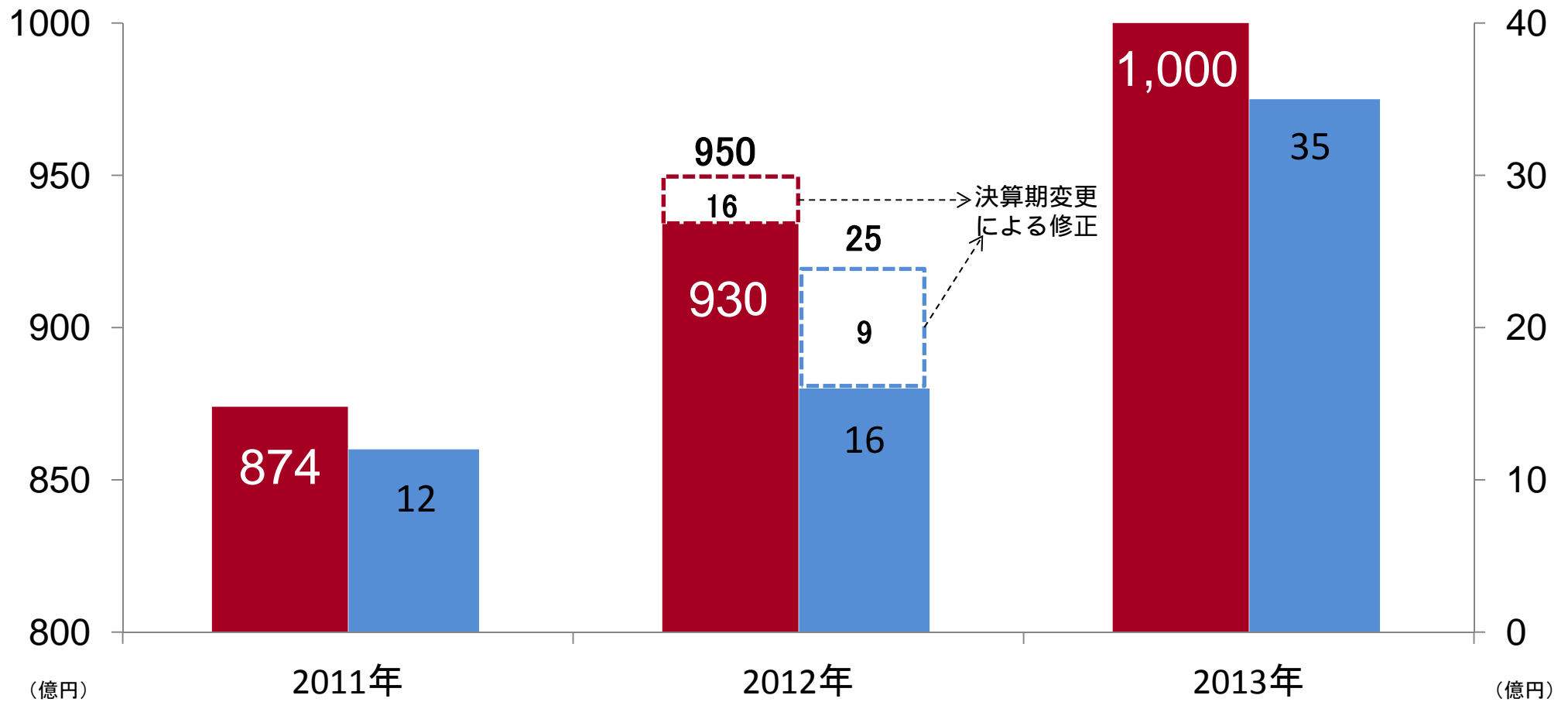
ノムラ安全協会  
(全国約300社)



今期は年間10億円以上を  
集中発注できる協力社を育成

# 中期経営計画3カ年の業績目標

■ 連結売上高 ■ 連結営業利益



# おかげさまで120周年



乃村工務社のすべては菊人形から始まった

新しい未来を創造するために原点をみつめる  
世界の「人間活性化企業」へ

百二十年、感動とにぎわいを。

THE 120TH ANNIVERSARY OF THE FOUNDING OF NOMURA  
おかげさまで 120周年

Prosperity Creator NOMURA  
株式会社 乃村工務社

## 120周年記念事業を展開いたします

お客様・株主・投資家の皆さまに向けたイベントを開催します

【会 期】 2012年7月5日(木)～7月20日(金)  
【場 所】 テレビ朝日 多目的スペースUMU  
東京都港区六本木6-9-1 テレビ朝日1F

お客様・株主・  
投資家の  
皆さまに向けた  
イベントの実施

120周年記念  
VI・広告



おかげさまで  
120周年

120周年記念  
社史の発刊

記念品  
等の配布